

事故防止に向けた安全対策

【ソフトテニス】

1 競技特性

- (1) ソフトテニスは、ネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを使ってボールを打ち合ってポイントを競うスポーツで、自分のコートに飛んできたボールをノーバウンド（コートに一度もつかない状態）か、ワンバウンド（コートに1度だけついた状態）で返球する。試合にはダブルスとシングルスがあり、対戦方法としては個人戦と団体戦がある。試合は、7ゲームマッチ（4ゲーム先取）か9ゲームマッチ（5ゲーム先取）で行われるのが一般的で、1ゲームは4ポイント先取。ただし、ファイナルゲームだけは7ポイント先取で行う。
- (2) ネットを挟んでプレーするため、身体接触は少なく、ボールはゴム製であるため、大きな事故はこれまでにない。しかし、ラケットや打球が当たること、選手同士の衝突、施設の整備不良による転倒などによる打撲や骨折などがある。また屋外での競技のため、近年では熱中症の重症化や落雷による重大な事故には特に注意する必要がある。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因 (事例)	傷害例	予防策
・テニスコートの整備不足による衝突・転倒 ・施設の破損による打撲等	・擦過傷 ・捻挫 ・打撲 ・骨折	・ブラシでコートの凹凸をなくす ・ネット、審判台、ベンチを正しく設置する ・施設の破損がないかを調べる

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況 (事例)	傷害例 (重症以上・軽傷)	予防策
・ラケット・ボールが当たる ・選手同士の衝突	・打撲 ・骨折 ・歯牙破折、脱臼 ・捻挫 ・打撲 ・骨折	・周囲と適切な距離をとる ・選手同士で声を掛け合う ・周囲の状況を確認し、コート内に入る ・周囲と適切な距離を取る ・選手同士で声を掛け合う ・周囲の状況を確認し、コート内に入る

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況 (事例)	傷害例 (重症以上・軽傷)	予防策
・炎天下における長時間のプレー ・荒天による落雷 ・Jアラート発令時の対応 ・津波警報時の対応 ・地震時の対応	・熱中症 ・心肺停止 ・電撃傷	・水分補給や休息の時間をとる ・救護室を確保する ・天気予報を確認し、天気状況を把握する ・待機場所・施設を確保、案内する ・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者に周知しておく ・情報収集の手段や、関係者および保護者との連絡方法について準備しておく